

(農の雇用に関する実態調査結果)

## (Ⅱ):「研修生」調査結果の要旨

平成24年3月  
鳥取県農業会議

(背景・目的)

県内では、新たな就業希望者を雇用し、経営改善に積極的に取り組んでいる個人経営や農業生産法人などが増加している。

農の雇用がどのように経営改善や新規就農につながっているのか、農の雇用事業によって雇用された研修生の実態を調査し、今後の農の雇用対策の参考にする。

### 1 調査対象

調査対象研修生は、次の事業に採択された経営体に雇用された研修生のうち、調査時点で研修を継続している者及び研修終了後も継続雇用されている者を対象とし、既に経営体を退職している者は除いた。

- (1) 国の農の雇用事業(平成21年3月～平成22年11月採択)
- (2) 鳥取県版「農」の雇用緊急支援事業(同上)
- (3) 重点分野雇用創造事業(平成22年7月～平成22年11月採択)

2 調査方法 本会より受入経営体を通じて郵送し、研修生から直接回収

3 調査時期 平成23年10月～11月

### 4 主な調査項目

「研修・就職の動機」、「研修・就職先選定の理由」、「研修・就農の感想」、  
「研修・就農後の農業に対する考え方」、「現在の仕事の内容、環境」、「今後の進路」、  
「労働基準法の労働時間等に関する考え方」等

### 5 回収結果

17市町村138経営体に雇用された180名の研修生のうち、113名から回答があり、回収率は63%であった。

### 6 結果の要約

#### 《回答のあった研修生の概要》

・研修生113名のうち、「経営体の後継者」は25名(22%)、「後継者以外の者」は88名(78%)

- 研修・就農の動機は「農業者との出会い」が23%で最も多く、「知人からの勧誘」(19%)、「後継者」(7%)などを合わせると、身近な関係者の存在や生い立ちが契機になったものが5割以上。一方で、「田舎暮らしへの興味」(19%)など特別な想いによるものが3割も。
- 農業体験・インターンシップ経験のある研修生は23%、期間は「3ヶ月未満」が約6割。
- 研修先の情報は「知人・血縁」から入手が5割。ハローワークは3割。
- 研修先の選定に当たっては、「経営者の人柄」や「職場の雰囲気」を重視。
- 農業の仕事に就いて良かったと感じることは、「収穫できた時などの達成感ややりがい」が過半でトップ。次いで「学ぶことの充実感」。
- 農業の仕事に就いて苦労したことは、「自然災害の猛威」、「栽培・飼育管理の難しさ」が、それぞれ4割以上。
- 研修・就農後、「農業の難しさがわかった」など7割以上が農業に対する考えに変化。
- 現在の仕事については、7割近くが満足。
- 研修終了後も8割以上が農業の仕事続けたいと回答。
- 以上のように、多くの研修生が経験なしの状態です研修を始め、自然の猛威や栽培・飼育の難しさを感じつつも、8割以上が研修終了後も農業を続ける気持ちを持っていることがわかった。後継者である者、新規就農を目指す者、経営体の中で能力を発揮する者、道は様々であるが、さらなる研鑽を積み、これからの日本の農業を支える人材へと成長することを期待したい。

#### (参考:調査対象研修生の年代別割合)

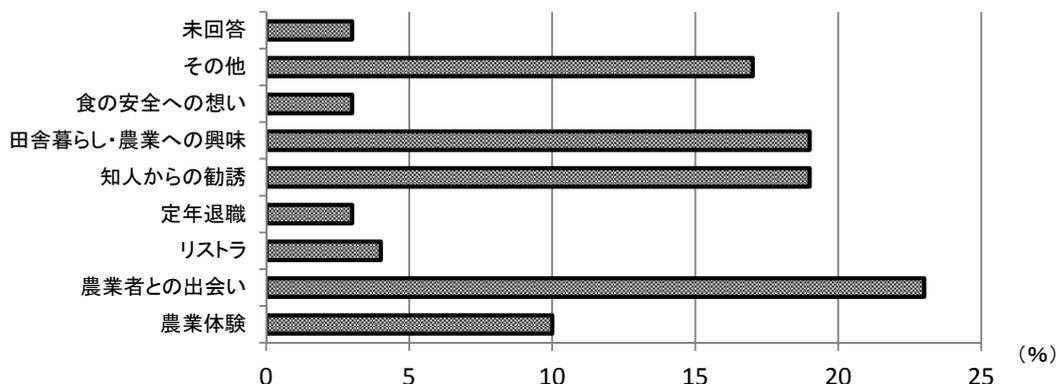
「10代」5%、「20代」41%、「30代」25%、「40代」9%、「50代」14%、「60代」6%

(調査結果の概要)

1 研修・就職の動機について

— 5割以上が「農業者との出会い」や「知人の誘い」によって決意 —

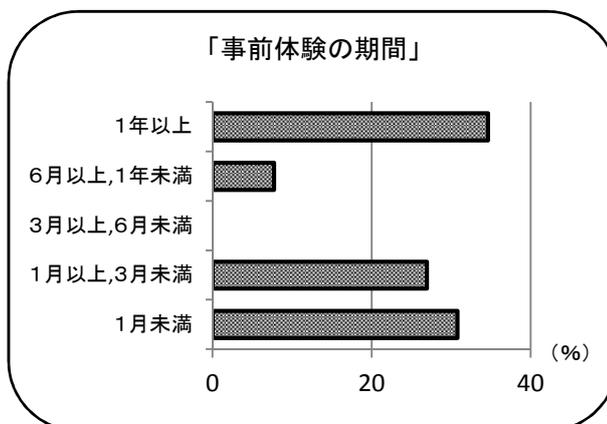
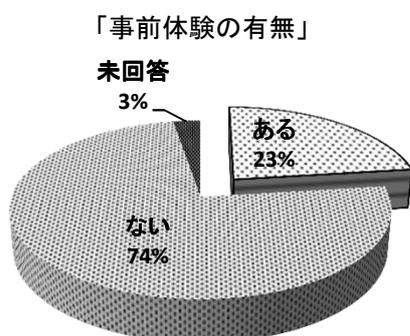
「農業者との出会い」が23%で最も多く、次いで「知人からの勧誘」(19%)、「田舎暮らし・農業への興味」(19%)、「農業体験」(10%)であった。  
「その他」は「後継者」(7%)、「ハローワーク」(3%)など。



2 農業体験・インターンシップの経験とその期間について

— 事前体験の「ある」研修生は23%、「3ヶ月未満」の短期体験が58% —

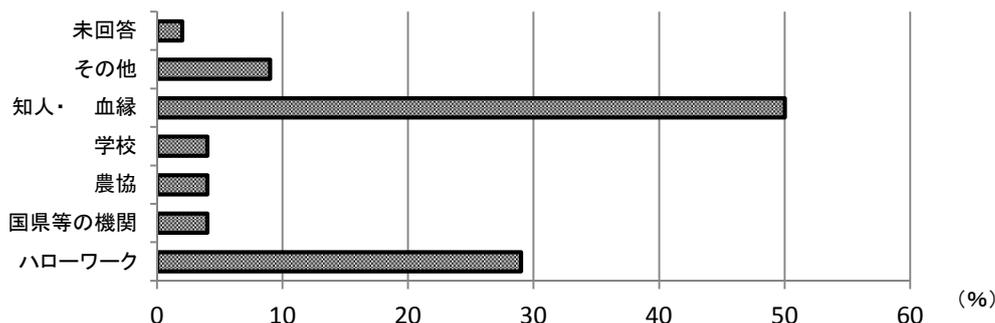
農業体験・インターンシップなど、農業の事前体験がある者は全体の23%であった。  
期間は「1年以上」(35%)が最も多かったが、3ヶ月未満でみると58%に達した。



3 研修先の情報入手先について

— 5割が「知人・血縁」を通じて情報を入手 —

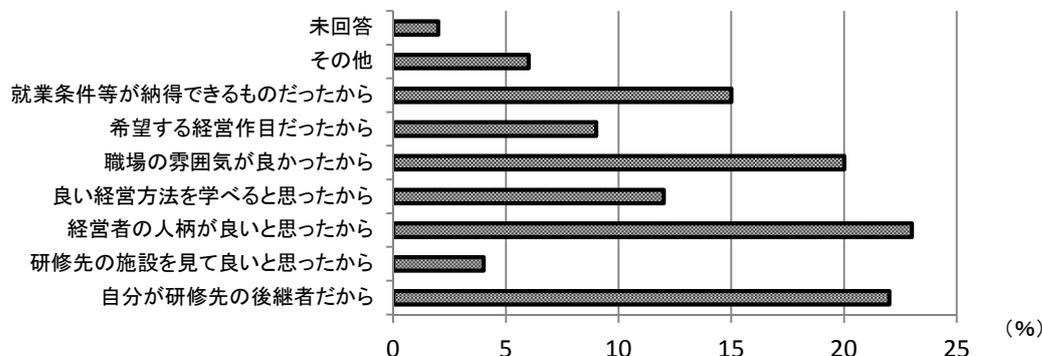
「知人・血縁」が50%になり、最も多い。次いで「ハローワーク」が29%であった。「国県等の機関」、「農協」、「学校」はそれぞれ4%であった。



#### 4 研修先の選定理由について

##### －「経営者の人柄」や「職場の雰囲気」の良さが上位－

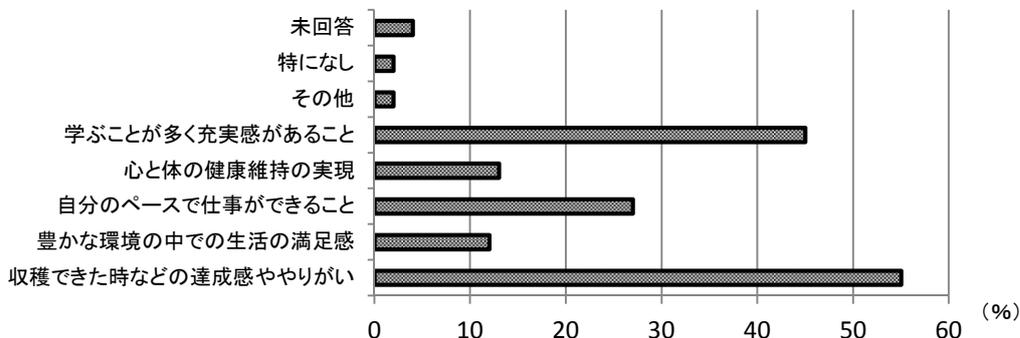
「経営者の人柄が良いと思ったから」が23%で最も多く、次いで「自分が研修先の後継者だから」が22%であった。「職場の雰囲気が良かったから」が20%、「就業条件等が納得できるものだったから」が15%、「良い経営方法を学べると思ったから」が12%と、職場環境を判断の基準にしたものが多かった。



#### 5 研修・就農の感想について

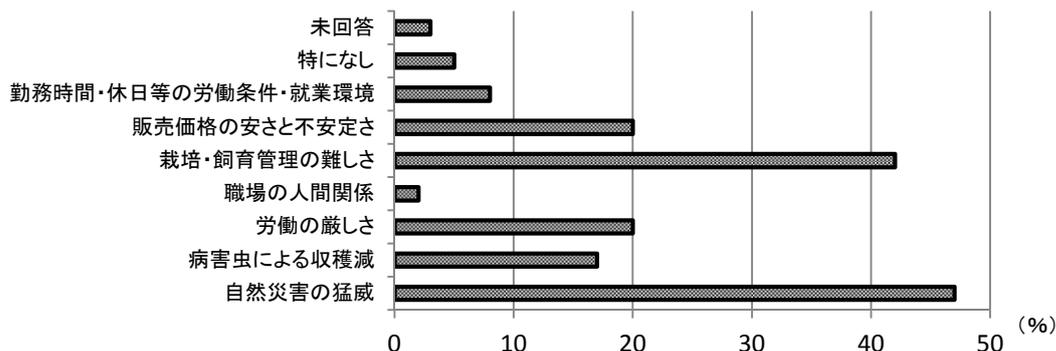
##### －「達成感ややりがい」、「充実感」が上位－

農業の仕事に就いて良かったと感じることは、「収穫できた時などの達成感ややりがい」が55%で最も多かった。次いで、「学ぶ事が多く充実感があること」が45%、「自分のペースで仕事ができること」が27%、「心と体の健康維持の実現」が13%、「豊かな環境の中での生活の満足感」が12%であった。



##### －「自然災害の猛威」や「栽培・飼育管理の難しさ」に苦勞－

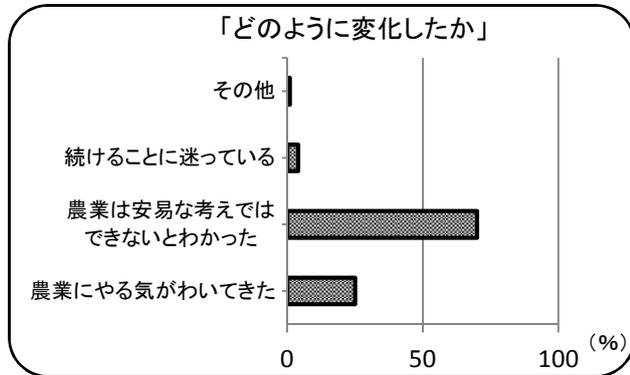
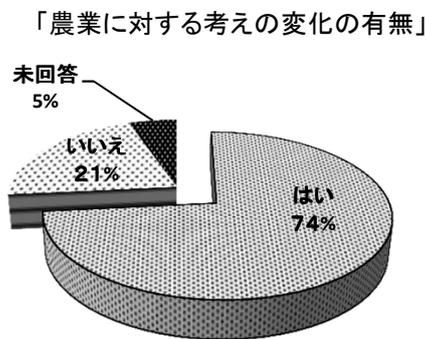
農業に就いて苦勞したことは、「自然災害の猛威」が47%で最も多く、次いで「栽培・飼育管理の難しさ」が42%であった。「労働の厳しさ」、「販売価格の安さと不安定さ」はそれぞれ20%、「病害虫による収穫減」は17%だった。



## 6 農業に対する考え方の変化の有無について

### － 研修・就農により7割以上が「農業に対する考え方」に変化 －

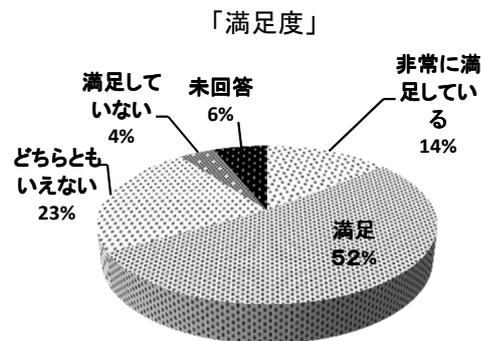
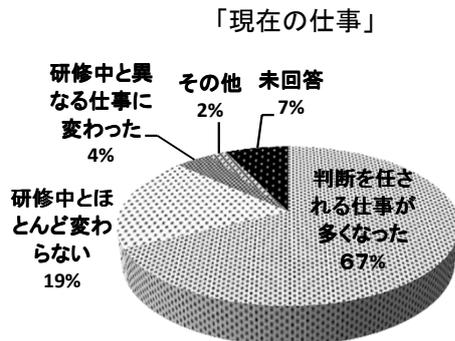
農業への考え方に変化があったかについては、「はい」が74%、「いいえ」が21%であった。「はい」の83人についてどのように変化したか尋ねたところ、70%が「農業は安易な考えではできないとわかった」と回答。一方、「農業にやる気がわいてきた」の回答は25%であった。



## 7 現在の仕事について

### － 「以前よりも判断を任されるようになった」、「満足している」がいずれも7割近く －

現在の仕事について「判断を任される仕事が多くなった」の回答が67%で最も多かった。次いで研修中とほとんど変わらない(19%)、「研修中と異なる仕事に変わった」(4%)であった。現在の仕事の満足度については「満足」(52%)、「非常に満足している」(14%)、「どちらともいえない」(23%)、「満足していない」(4%)であった。



## 8 今後の進路について

### － 農業の仕事を続けたいが8割以上 －

今後の進路についてどのように考えているか尋ねたところ、「従業員として継続勤務を希望」が最も多く、56%であった。「正社員として経営に参画したい」が17%、「独立就農」が11%で、合わせると8割以上が将来も農業を続ける考えを示した。

